

第7回「芥川作曲賞」決まる
川島 素晴氏の作品「Dual Personality」に

「芥川作曲賞」の第7回受賞曲は、8月31日（日）午後3時より東京・サントリーホールでの演奏会形式による公開選考の結果、川島 素晴氏の作曲による「Dual Personality」に決定した。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られた。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したもの。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考するという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっている。

なお、この日、公開選考演奏会に先だって、第5回受賞者・伊左治 直氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「美貌の青空」の初演が行われた。

また、今回は、去る4月10日に逝去された黛敏郎氏の永年にわたる優れた音楽活動と数々の功績に対して「サントリー音楽賞 特別賞」（賞金100万円）が贈られた。

▽第7回「芥川作曲賞」

川島 素晴（かわしま もとはる）

<受賞理由>

作品のコンセプトがはっきりとしており、構造的も高い。

きわめて新鮮な作風で、今後の可能性が期待できる点が評価された。

<略歴>

川島 素晴（かわしま もとはる）

1972年1月12日東京都生まれ。東京芸術大学音楽学部作曲科を経て、現在同大学大学院作曲専攻2年に在学中。これまでに近藤譲、松下功、金子晋一の各氏に師事。

92年フルート独奏のための<Manic Psychosis I>で第2回秋吉台国際作曲賞受賞。これにより94年ダルムシュタット現代音楽夏期講習に招待され、同作品が奨学生賞受賞。この作品は、その後96年ISCMコペンハーゲン大会に入選した他、世界各地で数十回に及び再演されている。96年再度ダルムシュタット現代音楽夏期講習に

招待参加、四重奏曲〈ポリプロソポスⅠ〉がクラニーヒシュタイナー賞受賞。この作品は、同年の作品個展にて再演された他、本年の秋吉台セミナー招待作品にもなる。96年〈Dual Personality〉により、日本音楽コンクール作曲部門第2位、併せてE. ナカミチ賞受賞。この作品は、本年度ユネスコ国際作曲家会議日本代表曲となる。他に、フルートとトロンボーンのための〈夢の構造Ⅱb〉（94年）、打楽器とcond. actorのための〈cond. act/konTakt/conteraste〉（96年）、〈10管楽器のための協奏曲〉（97年）、ゼフェロス独奏と9金管楽器のための〈ポリプロソポスⅡ〉（97年）等がある。

第7回芥川作曲賞 選考経過

1. 1997年5月18日（日）午後1時より東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて予備選考会を開催。1996年4月1日より1997年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品約70曲を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第7回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は一柳 慧、林 光、松村禎三の3氏。（50音順）

●川島素晴作曲 Dual Personality
— 打楽器独奏と2群のオーケストラのための
（初演：1996.10.22 毎日新聞社・NHK主催
「第65回日本音楽コンクール本選会・作曲部門」）

●手島恭子作曲 記憶の書
（初演：1996.6.21 日本交響楽振興財団主催
「現代日本のオーケストラ音楽・第20回演奏会」）

●丸山貴幸作曲 ナルシスの変貌
（初演：1996.4.26 東京芸術大学主催
「芸大定期オーケストラ第269回」）

（演奏順）

2. 1997年8月31日（日）、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮＝小松一彦、新日本フィルハーモニー交響楽団）。演奏終了後、「サントリー音楽賞 特別賞」の贈賞式をはさんで、ステージにおいて3選考委員による公開

討議を行なった結果、「第7回芥川作曲賞」受賞曲に川島 素晴氏の作曲による「Dual Personality」が選定された。

3. 公開選考終了後直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー音楽財団理事長・佐治敬三より賞状、賞金（50万円）が授与された。
なお、川島 素晴氏には、サントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成次第同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

▪
〔ご参考〕

「芥川作曲賞」について

1. 名 称
「芥川作曲賞」
2. 選考対象
毎年、前年の4月1日から翌3月31日の間に国内外で初演された（放送を含む）新進日本人作曲家による交響管弦楽曲の中からもっとも清新かつ将来性に富む作品1曲を選定します。
3. 選考委員
芥川作曲賞運営委員会（サントリー音楽財団と日本作曲家協議会で構成）が数名の選考委員を委嘱します。（本年は、一柳 慧、林 光、松村禎三の3氏）
4. 賞
 - （1） 賞状、賞金50万円。
 - （2） 受賞作曲家に新しい交響管弦楽曲を委嘱します。委嘱料100万円。
 - （3） 委嘱作品は完成後、サントリー音楽財団の主催する公演で初演します。
5. 選考方法
 - （1） 第一次選考会において候補作品数曲を選出します。
 - （2） 公開演奏会形式で最終選考会を開きます。選考方法としては、まず候補作品数曲を一括演奏し、終了後その場で選考委員が公開討議を行ない、受賞作1作を選定、贈賞します。
6. 贈賞期間
1991年より2000年までの10年に10回の贈賞を行います。

●過去の受賞者

- 第1回（1991年） 高橋 裕 <Symphonic Karma>
第2回（1992年） 山田 泉<一つの素描 ピアノとオーケストラによる II>
第3回（1993年） 菊池幸夫<ピアノと管弦楽のための「曜変」>
猿谷紀郎<ファイバー・オブ・ザ・ブレス（息の綾）>
第4回（1994年） 江村哲二<ヴァイオリン協奏曲第2番「インテクステリア」>
第5回（1995年） 伊左治 直<畸形の天女／七夕>
第6回（1996年） 権代敦彦<DIES IRAE / LACRIMOSA（怒りの日／嘆きの日）>

以 上

〔ご参考〕

故 黛敏郎氏に、「サントリー音楽賞 特別賞」を贈呈

（贈賞理由）

去る4月10日に逝去された黛敏郎氏は、「涅槃交響曲」（1958年）、「BUNRAKU（文楽）」（1960年）、「BUGAKU（舞楽）」（1962年）、オペラ「金閣寺」（1976年）、バレエ「THE KABUKI（ザ・カブキ）」（1986年）など数々の名作を発表し、わが国のみならず世界の作曲界に大きな足跡を残されました。そうした創作活動に加え、氏は1964年からご逝去の直前まで30年余の長きにわたり、テレビ番組「題名のない音楽会」の企画・構成・司会を担当、クラシック音楽の普及と啓蒙に努められ、また日本作曲家協議会、日本音楽著作権協会の会長を歴任されて、わが国音楽界の向上に尽くされるなど、多大な貢献をされました。

当財団といたしましても1990年、氏のお申し出を受けて「芥川作曲賞」を創設して以来、運営委員・選考委員として格別のお世話になりました。

サントリー音楽財団は、このようなご生前の氏の音楽界に対する数々のご貢献を讃え、深い感謝の気持ちをこめて、このたび氏のご霊前に「サントリー音楽賞 特別賞」（賞金100万円）をお贈りいたします。

以 上